



喜志町
林 瑠郁ちゃん (4カ月)
心も身体も健康で
すくすく育ってね!!



美山台
水嶋 紬ちゃん (3歳10カ月)
いと 絃ちゃん (10カ月)
いつも仲良し可愛い姉妹♡
2人の笑顔が大好き!



加太
増田 結衣ちゃん (3カ月)
毎日、素敵な笑顔ありがとう☆
パパとママの宝物です。

みんなの広場



藪中 よしゑさん (2月17日生まれ)



田中 ナラエさん (3月2日生まれ)



植島 チエさん (3月10日生まれ)

100歳
おめでと〜ございます!
誕生日を迎えられた皆さんを訪問しました。

宛先

584-8511
常盤町1番1号
富田林市役所
情報公開課広報係
住所・氏名(ふりがな)・電話番号

わが家のアイドル(対象年齢は4歳未満、兄弟・姉妹と一緒に写っている写真でも可)は、写真に、メッセージ(20字程度)を添え、住所、保護者とお子さんの名前(ふりがな)、撮影時の年齢(月齢)、電話番号を記入し、Eメール[kouhou@city.tondabayashi.lg.jp]または、封書で左記の宛先まで応募してください(Eメールの場合は件名に「わが家のアイドル」と入力してください)。

なお、今応募された場合、掲載は約2カ月後になります。

川柳

富柳会 池 森子選
今月の宿題「平」

秀句

平凡が似合う私の生きる道

楠町

池田 和子

△選評Vこの世に生れてからの長い旅路は曲りくねっては止まる荒野と平野。

そして紆余曲折は喜怒哀楽と手をつなぐ。

故にこの世に生れてからの長い旅路は泣いたり、笑ったりの大きな心という器を旨として...

平和やな一手に銃剣が今は鉞

甲田

清井 浩

手の平に無欲の彩を遊ばせる

津々山台

前田 トシ子

平凡を重ねて築く金字塔

小金台

栗田 昌

泣き笑い平均台を行くわたし

高辺台

児玉 節子

平凡に生きる秘訣は匙加減

楠風台

正木 浩

外は雨道は平か坂道か

新青葉丘町

首藤 洋子

四捨五入愛の残像だけの平和

選者 吟

※5月号は「短歌」を掲載します(なお、応募は3月31日で締め切りました)。

川柳・短歌・俳句は、それぞれ別のがきで応募してください(1人各5点まで)。市内在住の人で未発表のものに限ります。作品の漢字や氏名には必ずフリガナをつけてください。

6月号の「俳句」は4月30日(日)、7月号の「川柳」(宿題「嵐」)は5月31日(水)、8月号の「短歌」は6月30日(金)までに応募(いずれも必着)してください。宛先は上記をご覧ください。

MEET★とんだばやし

～認知症になっても笑顔で暮らせる富田林～

本市では、「認知症になっても笑顔で暮らせるまち」をめざして「MEET★とんだばやし（みんな笑顔と笑顔で手をつなごう）」をキャッチフレーズに、さまざまな取り組みを進めています。



○認知症になっても大丈夫

認知症になると何も分からなくなるわけではありません。

記憶が途切れることもありますが、できることはたくさんあります。うれしいこと、楽しいことはずっと心に残ります。

生活上の支障があっても、地域の人の手助けや優しい声掛けがあれば安心して生活できます。

認知症の経過は、年齢や原因疾患などによりさまざまですが、みんなと一緒に支えていきましょう。

○ひとりで悩まずホッとひと息つきましょう

家族だけで認知症の人を支えるのは困難です。一緒に乗り越えてくれる仲間や専門職を探しましょう。

本市で定期開催している「認知症介護家族の交流会」に気軽にご参加ください（奇数月第4水曜日、午後1時30分～）。相談には、ほんわかセンター（地域包括支援センター）の保健師や看護師などの専門職が対応し、認知症サポート医の講演や脳を元気にするクッキング、アロマ体験なども企画しています。認知症の人もぜひ一緒にご参加ください。内容や申し込み方法など詳しくはお問い合わせください。

また、昨年「認知症ケアを推進する会おれんじパートナー」が発足しました。交流会では、認知症の人やその家族、住民、認知症サポーターなどが気軽に集い、お茶を飲みながら困り事や不安を出し合い、情報交換をしています。交流会は、偶数月に開催しており、今月は4月26日（水）、午後1時30分～、すばるホール会議室で開催しますので、気軽にご参加ください（当日直接会場へ、お茶菓子代100円実費）。お住まいの地域で出張交流会も開催できますので、同パートナー事務局〔☎090(3996)0071〕までお問い合わせください。

高齢介護課（内線189）

わがまちこのひと

東条村・富田林市合併60周年を迎えて 東条地区10町連合会

今回は、今年本市と合併60周年を迎えた東条地区で環境問題を中心とした地域課題に取り組みされている東条地区10町連合会を紹介いたします。

戦後の昭和21年には全国で1万520の自治体がありました。が、全国的に市町村合併が推進される中、昭和32年1月15日、東条村と本市が合併しました。当時の広報誌は、東条地区を「人口2431人、世帯数436世帯で、41町歩（約41畝）の畑で温州ミカンが栽培され、生産高は9万貫（約338ト）にも及び、全国的に知られたミカンドころ」と紹介しています。長年住んでいる人のお話では、ミカンの収穫期には、収穫する人、搬出する人、出荷する人など、家族・親族総出の作業で、周辺からの雇い入れの人もあり、本当に活気に満ちていたようです。

本市の南東部を占める東条地区は美しい田園や里山の風景が広がり、緑に包まれた谷や棚田も多くあります。そんな府下でも有数の自然に恵まれたのどかな土地を守っていくため、平成元年に、「東条地域整備促進協議会」が結成され、5年には、地区にある10の町会の町会長、整備促進委員、水利組合役員などが一体となって、「東条地区10町

連合会」が結成されました。現在同連合会では、「自然と緑豊かな町東条」を合言葉に環境を守るためのさまざまな取り組みをしています。

「サクラ事業」は、この地をサクラ満開の里にしようという事業で、5カ年計画で苗を2000本植え、草刈りなど地道に管理してこられました。今では、爛漫に咲き誇る立派なサクラが私たちの目を楽しませてくれます。

「ホタル復活事業」は、ホタルが飛び交う水のきれいな里をつくろうという事業で、毎年夏に鑑賞会が開催されるなど、地区のあちらこちらでホタルが飛び交うようになりまし。

また、今年2月11日には、合併60周年の記念講演会が開催され、東条地区が過去から未来につながる有意義な講演会となりました。

同連合会会長の草尾 家保さんは「私は緑が大好きで、空気がうまい東条が大好きです。これからの人たちのためにもこの環境を守るのが東条地区10町連合会の役目と思っています」と力強く話されていました。

